道徳と日文 これまでも、これからも

文部科学省検定済教科書　中学校道徳科用　令和３年度版

中学道徳　あすを生きる 1～3年

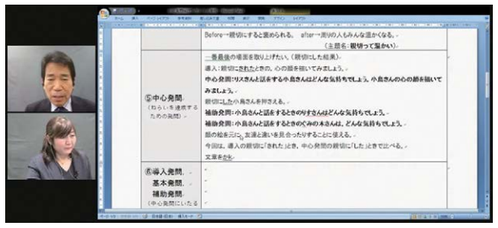
- 各学年「道徳ノート」付き。
- 解説編，朱書編，指導者用デジタル教材，デジタルデータ集，朗読音声CD からなる教師用指導書完備！

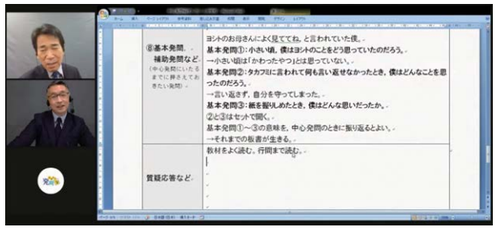
詳しいご案内や
各種資料は
こちらから
ご覧いただけます！

どうとく 発問ラボ　ウェブ新企画

島先生と考える!! どうとく発問ラボ ～授業を深めよう～

- 小学校／中学校
  島 恒生 先生　畿央大学大学院教授
- 小学校「ぐみの木と小鳥」
  龍神 美和 先生　豊能町立東ときわ台小学校教諭
- 中学校「ヨシト」
  多田 義男 先生　筑波大学附属中学校教諭





日本文教出版のウェブサイトで，新しい企画がスタートします。
「どうとく発問ラボ」は，ある教材について，そのよりよい発問について考える動画コンテンツです。今回は先生お二人の対談形式で，意見交換の内容を発問検討用ワークシートにリアルタイムでまとめながら収録しました。
先生方には，発問作りの流れやポイントをわかりやすくお話しいただきました。近日，弊社ウェブサイトにて公開予定ですので，ぜひご覧ください。

どうとくのひろば No.28

日文教育資料［道徳］
令和3年（2021年）1月31日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン：モスリングラフィック

CD33541

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文教育資料［道徳］

どうとくのひろば

No. 28

こころのひろば
未来のために
動物園ができること
［長瀬 健二郎］…… 2

新しい生活様式と学び
デジタル活用と道徳教育
［山内 雅博］…… 6

見てわかる！ 道徳
「正直，誠実」（小学校）
「自然愛護」
［越智 貢，上村 崇，奥田 秀巳］…… 8

実践事例【小学校】
毎週の授業を組み立てていくうえで
大切にしたいこと
［岡尾 あすか］……10

実践事例【中学校】
さまざまな立場に立ち，
多角的に考える道徳授業の実践
［榎本 小有希］……12

こんなコト，聞いてみました！
道徳の授業におもしろさを
感じる瞬間は？
［中山 芳明］……14

地球の仲間からのメッセージ
渡り鳥［長瀬 健二郎］……15

本資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り，配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！
日文　検索

新しい生活様式と学び
※このマークが付いている記事は，学校の新しい生活様式と学びをテーマに構成されています。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは，株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

こころのひろば

未来のために動物園ができること

長瀬 健二郎（ながせ けんじろう）

Profile

獣医師，
元大阪市天王寺動物園長

1974 年から天王寺動物園に勤め，野生動物の保護，管理に従事する。1989 年のコアラ来園の際には，獣医師としても飼育員としても深く関わる。
現在は，動物飼育員を育てる専門学校で講師を務めている。

本誌巻末の「地球の仲間からのメッセージ」を長く連載していただいている長瀬先生に，動物園の役割や私たちがすべきことについて，経験をもとにお話しいただきました。

動物園には何年間勤務されたのですか？

38 年間です。22 歳で大学を卒業してすぐに就職しました。小学校に入る前から動物好きで「大きくなったら動物園の園長になって動物の世話がしたい。」と言っていたそうなので，その夢がかなってラッキーでした。でも入ってみたら，思っていた動物園と実際の動物園は違うということがよくわかりました（笑）。

動物園の社会的役割とはどのようなものだとお考えですか？

「動物のことを勉強するんだ。」と思って動物園に来る人はあまりいないでしょうから，楽しく動物に親しんでいただいて，少しでも動物のことを考えていただくきっかけになればいいなと思いますね。

天王寺動物園では，1975 年から子どもたちを対象にサマースクールというものを実施しています。始めた当初は一人の子どもが 3 日間動物園に通って飼育の実習をしたり，動物のことを学ぶという内容でしたが，今では 1 日 36 人を受け入れて 3 日間開催し，合計 108 人が動物のことを勉強したり，飼育の実習をしたりしています。天王寺動物園がこんなことを実施しているというのはあまり知られていないようですが，展示場や寝室の掃除をしたり，エサの準備をしたりするなど，直接野生動物の世話をしたことは，受講した子どもたちにとって強く印象に残るだろうし，それなりの効果があると思っています。

よく「ふれあい」という言い方が使われる，「子ども動物園」というものがありますね。正確には，そこにいるのは「動物の子ども」ではなく「小動物」で，人間の子どもたちが，生きている動物の肌の温かさなどから命を感じるということなんですが，あれはうまく運営しないと動物虐待にもつながりかねないことなんですね。自ら喜んでふれあいの場へ出ていくウサギやモルモットなんてまずいません，みんな交代で出演しているんです。人間に触られることは，彼らにとって程度の差こそあれストレスなんです。自分よりはるかに大きな生き物が近寄ってきて触るのですから。

「子ども動物園」が充実しているある動物園で，モルモットを子ども動物園内で長く飼育しているうちに，人に触られてもストレスを感じず，自ら人に寄っていくような個体が現れたという話があります。そのように人に触られるのが喜びになるような動物ができれば，それはお互いにいいことだと思うんですけれど，そうでない動物を「小さいから」「あまり危険がないから」という理由で子どもに触らせるというのは，よほど入念な準備が必要であると思います。

また，世界では現在 3 万種以上の生き物がレッドリストに登録されていますが，種（しゅ）の保存というのも動物園の大切な役割です。

例えば，動物園では飼育している鳥を個体識別するため脚に輪っかをはめたり翼にバンドをつけたりするのですが，それが，野生動物の保全や管理のために行われる野外での個体識別にも応用されています。「動物園ではこの大きさの鳥ならこの大きさのバンドだと彼らに負担をかけることなく大丈夫だった。」というように，判断の基準として活用されることがあるんですね。捕まえた鳥に一か八かでバンドをつけて，それが原因で命を落とすというようなことは決して起こってはならないですし，それではデータが取れません。希少動物の場合はなおさらそうです。その動物にとってちょうどいい大きさを判定することはとても大切で，そのために，動物園での調査結果は重要な役割を果たしています。

動物が希少になっていくことと，人間の生活とは関わりがあるのでしょうか？

むしろそれ以外の原因はない，といってもいいくらい，大きく関わっていますね。逆に人間以外の要因で動物が減っていくのは，自然の趨勢なので仕方がないことです。それに関しては誰も文句は言わないですが，人間という一つの種だけの，特に経済活動のために，動物の生息数が減ってしまうというのは許されないことだと思います。

動物たちが生きていける地球というのは，とりもなおさず人間にとっても暮らしやすい環境であるということです。動物にとって悪い環境が，人が暮らす環境としてよいわけがありません。「自分たちだけの地球ではない。」ということを強く認識してもらうためにも，動物園が必要だと思いますね。

地球に住む動物の一つと考えると人は増えすぎましたし，その存在が地球にあまりにも大きな影響を与え過ぎるようになってしまいましたからね。自分も人間でありながらこんなことを言うのはおかしいのかもしれませんが。

動物園の今後の課題は何でしょうか？

実は，動物たちをお客さんに見てもらいながら繁殖も順調に進める，というのはなかなか難しいところがあって，展示場と繁殖場をきちんと分ける必要があるのではないかなと思いますね。現時点では分かれていない動物園のほうが圧倒的に多いんですけれど。

例えば，猛禽類と呼ばれるワシやタカは，食物連鎖のトップに君臨するように，鳥の中では一番強いのですが，強いからといって何も恐れるものがなく，動物園でも簡単に繁殖するというわけではありません。逆に動物園の中ではなかなか繁殖しにくい鳥の一つなんです。なぜかというと，やはり人に見られるのが大きなストレスだからなんですね。そのため，天王寺動物

園で猛禽舎を作るときは，繁殖を考えて奥行きの深い展示場を作りました。その結果，イヌワシでもようやく繁殖に成功しました。

兵庫県にあるコウノトリの郷公園は，本当に一部分だけ公開して，ほとんどの土地を繁殖用に使っているみたいですね。

最近の動物園は，展示にもさまざまな工夫がされていますね。

北海道の旭山動物園は，動物の行動がよくわかる「行動展示」という展示をしていますが，天王寺動物園は「生態学的展示」といって，動物が暮らしている環境をそっくりそのまま切り取って展示場内に再現する見せ方を目指しています。例えばアフリカサバンナゾーンでは，ライオンやシマウマが暮らしている環境をそっくり飼育展示場内に再現したような，動物の暮らしぶりがよくわかるような試みを実施しています。肉食動物と草食動物がどのように暮らしているかわかると同時に，お客さんも実際に現地に行って動物たちを見ているかのような感覚が得られる展示を目指しています。

動物飼育員を目指す人たちに伝えたいことはありますか？

イヌやネコはファミリーメンバーとして人間を認めてくれているから，具合の悪いところがあったら積極的に態度に表してくれる。だから家族として生活できる。しかし，野生動物は弱っている姿を見せません。

テレビ番組などでも見たことがあるかもしれませんが，ライオンがカモシカを狙っているとき，カモシカの群れの中で急にぴょんぴょん飛び跳ねる個体が出てくるんです。そのうち，ほかの個体もぴょんぴょん跳ね出すんですけれど，あれはたいへん意味があることなんですよ。ライオンが獲物を狙っている前でぴょんぴょんやると目立ってしまい，かえって狙われるのではないかと思われがちなのですが，そうではなく，「私はこんなに元気ですよ。私を狙っても無駄ですよ。」ということをアピールしているんです。少々無理をしてでもそういうことをするのが野生動物なのです。本当は体調が悪くてもなかなかこちらには見せてくれないんです。それを見破って異常に気づくというのは大変なことなんです。

動物園では，動物が死ぬと必ず解剖します。その理由の一つは，野生動物は飼育例がまだ少なくデータも少ないので，今後の参考にするために，臓器の重さや長さを測ったりしてデータを集積する必要があるからですが，同時に死因を探るためでもあります。

前日まで元気にしていた動物が，翌朝死んでいるということがあります。解剖するとお腹中にがんがたくさんできていて，これだけの病状でよく生きていたなと思うような状態になっていたりすることもあるのですが，やはり彼らは弱っている姿を全然見せないですね。プロの飼育員でもなかなか見抜くことができない。飼育員になるということは，そういう動物の世話をするということであると，覚悟を決めてやってほしいと思います。

動物園のお仕事の中で印象に残っていることを教えてください。

コアラの飼育ですね。天王寺動物園に初めてコアラがやってきたときに担当しましたから。あのときは本当にいろんなことが大変でした。

動物園の獣医師というのは獣医学的なことをするのが普通で，動物を直接世話するということはあまりないのですが，人員の都合で，私も飼育係と同じ仕事をしながら獣医師としてもコアラに接することになりました。

朝一番にコアラが元気にしているかを見てから作業が始まるのですが，健康であるかを確認するためにエサの食べ跡をしっかり見たり，あるいは小指の先ぐらいの大きさのコアラのフンを，一粒ひとつぶ状況を確認しながら拾って，数を数えて重さを測ったり，ということも経験させてもらいました。

もともと「動物を飼育したい。」というのが夢でしたから，それが実現でき，天王寺動物園の獣医師としてはとても珍しい体験ができたというところでは，コアラに対する思いが一番強いですね。

子どもと動物園に行ったときのおすすめの観察方法はありますか？

大人が口を出さずに，まずはじっくり見せるということだと思います。

親にとってはもう見慣れた動物なので，子どもがじっと見ているのに「今日一日で全部見なきゃいけないから次に行こう。」と引っ張っていく光景をよく目にしますが，それはあまりよくないと思うんですね。子どもはそれに興味をもっているからじっと見ているのです。子どもが「ずっと見たい。」と思っていたら見させて，「次，どこかに行きたい。」と言えばそうしたらいい。動物園に子どもを連れてきたのは子どものためなのですから。そのうち子どもも，特に見たいものを選別していくようになるはずですよ。

飽きるまで見てもらえれば，見られている動物は動物冥利に尽きるんじゃないかな，と思うんです。ちょっと言っていることが矛盾していますけれど（笑）。

動物園の外で，身近な動物を路上観察するときのポイントなどはありますか？

私は道を歩いているとき，例えばスズメのようなありふれた鳥であっても，時間が許す限り観察します。そうすると，必ずといっていいぐらい興味深い行動をしてくれますよ。

我々は哺乳類の中でもかなり変わった存在で，ほかの哺乳類と異なる時間帯で活動しています。「人間は哺乳類の中の鳥である」という言葉があるのですが，これは，人間が哺乳類でありながら鳥のような生活をしているということを意味するものです。視覚に頼って外界から情報を得ているところや，昼行性であるところ，鼻が利かないところ，多くが一夫一妻で子どもの面倒を見るところなど，鳥との共通点が多くあるのでこのような言葉が生まれました。

野生動物の中でも人と同じ時間帯に行動する鳥は哺乳類よりも目につきやすいですし，鳥を見かけたらぜひ一度じっくり観察してみてください。これまで気づかなかった新しい発見がきっとあると思いますよ。

本誌の読者の先生方にメッセージをお願いします。

道徳とは，すなわち「人の道」だと思うんですが，「人の道」をしっかり学ぶだけではなくて，「地球上で暮らす生命としての道」という観点も当然あると思います。一つの生命として果たさなければならないことや，地球上の生命の構成員としてやってはいけないことがたくさんあるということに，多くの人が気づいてほしいと思いますね。

野生の生き物に食べ物をむやみにやらないなど，人として守らなければならないルールをきちんと守るということについて，道徳を教える立場の方々には少なくともわかっていただきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

新しい生活様式と学び

デジタル活用と道徳教育

愛媛県西条市立神戸小学校教頭　山内 雅博

デジタルは，道徳の授業をどう進化させるか？

コロナ禍により私たちの生活は，一年前には思いもよらないものとなった。ソーシャルディスタンスやマスクの着用，消毒の徹底などの感染症対策が日常的なものになり，学校現場では臨時休業時にオンライン教育の取り組みが始まったところもある。そして，GIGA スクール構想の前倒しによる一人一台端末などの整備は，急ピッチで進んでいる。政府においてもデジタル庁が創設されるなど，今後学校現場だけではなく，すべての生活においてデジタル化が急速に進んでいくのは間違いないだろう。

では，道徳教育における授業のデジタル化は，どのように進めていけばよいだろうか。そのために，我々教師には，どのようなことが求められてくるのだろうか。また，オンラインで「考え，議論する道徳」を効果的に行っていくには，どうすればよいだろうか。ポストコロナの道徳の授業，道徳のねらいを達成するためのデジタル活用について提案したい。

一人一台端末を前提とした授業デザイン

道徳のデジタル化を考える前に，現在進められている GIGA スクール構想について確認したい。

GIGA スクール構想は，子どもたち一人ひとりに個別最適化され，創造性を育む教育の実現と，それに伴う ICT 環境の整備・充実を目指すものである。具体的には，一人一台のタブレット端末貸与とそれに伴う無線ネットワークなどの教育環境の整備・充実を行う。これまでは，わざわざ端末を別教室から持ってきたり，PC 教室へ行ったりして活用していたものが，各自の机の上ですぐ活用できる状況になる。つまり，**今後は一人一台端末を前提とした授業デザインが必要**となるということである。そして，ICT を活用し，子どもたち一人ひとりのニーズに応えつつ，習熟度や達成度をもとに一斉指導とは違う適切な関わりを実現すること，つまり個別最適化が求められてくる。

それでは，道徳の授業において個別最適化とはどういうことだろうか。もちろん，これまでの道徳でも，価値の類型化による個の経験や思いに沿った価値の選択，心情メーターによる思いの図示・明示化，役割演技による疑似体験など，さまざまな手立てで個の思いや考えをもとにした授業を展開し，個別最適化を図ってきた。そして，互いの思いや考えを知り，問題について議論する中で，子どもたちは自分の見方・考え方を広げ深めてきた。つまり，**「考え，議論する道徳」では，個別最適化するために，思いや考えを共有することがきわめて重要であり，より一層その必要性が増してくる**ということである。

実は，一人一台端末では，それぞれの思いや考えを共有することがこれまで以上に簡単になる。子どもたちは，自分の端末に思いや考えを記入し送信すると，瞬時に全体や特定のグループへ共有することができる。デジタルを活用することで，簡単に素早く他者の考えを知ることができ，じっくりと自分の考えを深めることができるのだ。

デジタルのよさを生かすために

デジタルを活用した道徳の授業には，さまざまなよさがある。その中でも「視覚化」「焦点化」「共有化」の３つは，ぜひ取り入れていきたい。

例えば，子どもたちの選択を円グラフや棒グラフにしてグラフ化したり，クラス全体の心情メーターを一覧表示したりする視覚化。考えを深めたい発言や意思，会話文などを電子黒板に拡大して映し出し，何を考えるのかわかりやすくする焦点化。ワークシートに書き込んだことを大画面の電子黒板に映したり，それぞれの端末に配信したりする共有化。これら**「視覚化」「焦点化」「共有化」を意識してデジタルを取り入れることで，より一層学習を深めることができる。**

また，端末に書き込んだ子どもたちのさまざまな思いや考え，価値観を教師が把握し，それらをもとに意見を聞くことで，ねらいとする価値に近づいたり，葛藤するような問題を提示したりすることもできる。デジタルを活用し，それぞれの経験や価値観の違いを共有することで，多様なものの見方や考え方を深めることができる。もちろん，これらは教師の授業デザインの選択肢の一つであるが，今後の授業作りの際には必要な視点である。

また，多くのデジタル教材には，残り時間がわかりやすいタイマーや心情メーターなど，可視化するツールやコンテンツが用意されており，とても便利である。**教室にいる誰もが「わかる・楽しい・できる」授業を目指す，授業のユニバーサルデザイン化にも，デジタルの活用はたいへん有効**だと言える。

道徳科のデジタル化のために必要なこと

GIGA スクール構想，またオンライン授業に対応するためには，教材自体のデジタル化を進めていく必要がある。例えば，これまで板書していた内容を PowerPoint などのプレゼンテーションソフトに置き換えることで，オンラインでも対面でも両方活用できる教材となる。日本文教出版が作成している指導者用デジタル教材は，紙の教科書の内容がデジタル化されており，電子黒板に映し出したり，オンラインで画面共有したりすることができるほか，自分の思いや考えを表現するツールも搭載されている。一対一，一対多の意見交換や情報共有がしやすく，たいへん有効なツールである。

このように，**デジタルを「教師が説明しやすいツール」としてではなく「子どもたちの考えの深化と，関わりを促すツール」として捉え，活用することが重要**である。

オンラインで「考え，議論する道徳」

オンライン授業と対面授業はどう違うのだろうか。対面授業では相談や共有が目の前で行われており，何をするのか，何を考えるのかがわかりやすい。一方，オンライン授業では，画面を通して相談や共有を行うことになり，手が届きそうで届かないもどかしさがある。しかし，対面授業よりも効果的な面もある。対面授業では，発表しない子の意見が共有されないまま終わってしまうこともあるが，オンライン授業では，端末などに記入さえできれば共有は簡単である。デジタルを活用することで，対面授業よりも，個の思いや考えを汲み取ることができるともいえる。

デジタルポートフォリオで心の変化を感じ取る

終末の振り返りや感想を端末に記録することで，一年を通じて，あるいは学年をまたいで自己の変容を知ることができ，一人ひとりのデジタルポートフォリオとなる。**自分の振り返りを見直すことで，何が自分を**

このように変えたのか，どうして気持ちの変化が起こってきたのか，心の変化や成長を俯瞰して考えることができる。そうすることで，メタ認知する力を高めることができるのである。これは道徳性を養ううえで，大きな役割を果たすに違いない。

また，教師にとっては，道徳の授業の積み重ねにより，子どもたちがどのように変容してきたのかを確認することができる。

前に進むのか，足踏みするのか

デジタルは道徳の授業をどう進化させるのか。

教師にとっては，これまで以上に子どもたち一人ひとりの意見をもとにした授業ができるようになる。

子どもたちにとっては，考えること・議論することに集中でき，他者の意見との比較・検討やより深い吟味を促すツールとなる。また，思いや考えの変遷をデジタルポートフォリオとして蓄積でき，自分の成長や見方・考え方を見直すことで，メタ認知力を高めることができる。

前に進むのか，足踏みするのか。**これまでの授業をアップグレードし，より高めるツールとしてデジタルを活用することが肝心**である。一歩踏み込む授業デザインのために，教師のマインドチェンジが求められている。

山内 雅博（やまうち まさひろ）

・西条市教育委員会を経て現職。
・西条市教育委員会では，ICT 教育担当として，人口減少社会における ICT の活用による教育の質の向上実証事業や，スマートスクール・プラットフォーム実証事業など，国の施策の推進に携わる。
・ 2019 年より MIEE（マイクロソフト認定教育イノベーター）として活動。

第15回

見てわかる！道徳

「正直，誠実」（小学校）
「自然愛護」

監修：広島大学名誉教授　越智 貢
共著：福山平成大学教授　上村 崇
富山国際大学講師　奥田 秀巳

自然愛護

自然愛護や自然保護に反対する人はいません。自然を大事にし，自然を守らなければならないことは小さな子どもでも知っています。大人も子どもたちに自然を大事にしなければならないと語りかけます。

しかし，自然愛護の問題とほかの問題，例えば道路の建設とをはかりに掛けざるを得ない事態が生じたら，事情は変わってきます。道路建設には，住民の利便性や地域産業の振興，さらには災害時の救援活動の手段など，さまざまな理由が挙げられるに違いありません。それらが強く主張されるとともに，自然愛護の声はかき消され，道路建設の比重が大きくなります。たとえ，その土地に希少種の自生地域が含まれているとしても，です。

「やむを得ない」

このように，道徳の一つの項目だけを取り上げれば全員一致の賛成を得るとしても，それがほかの項目と競合すると，そうではなくなってくる例は少なくありません。どちらかを選ばざるを得ない場合，道徳の項目間に，事実上の優先関係が生じてこざるを得ないのです。

そして，一方の道徳の項目が優先されなかったことに対しては，決まって「やむを得ない」「仕方がない」といった言葉が発せられます。道路建設が選択される場合には，「自然保護は大事だが，利便性や人命尊重のためであれば，それを犠牲にするのはやむを得ないことだ」というように。

正直と「やむを得ない」

「やむを得ない」「仕方がない」という言葉は，自然愛護の例に限られるわけではありません。もっと身近な場面でも生じてきます。例えば，うそをつくことです。大人は誰でも正直でなければならないと語り，子どもたちにもそう教えます。にもかかわらず，大人も子どももうそをつくのです。

無論，うそをつくこと自体を目的とすることはほとんどないかもしれません。人がうそをつく場合には，たいてい正直であることと別の事柄との競合が認められます。目の前の窮地や不利な状況を脱するためには，「真実を隠さざるを得ない」あるいは真実とは異なったこと，つまり「うそをつかざるを得ないのだ」と。ここにも「やむを得ない」「仕方がない」という意識が登場します。

判断事項	価値 A （判断）	価値 B （判断）
自然豊かな場所を開発するべきか？	自然愛護，自然保護 （開発の再考）	利便性の追求， 災害時の人命救助 （開発の推進）
友人を傷つけないためにうそをつくべきか？	正直，誠実 （自分の気持ちに正直に， うそはつかない）	思いやり，友情 （友人を傷つけたくないから うそをつく）
学校生活でクラスメイトとどう付き合うか？	友情，信頼 （互いに理解し合い， 友情や信頼を育む）	公正，公平，社会正義 （同調圧力に流されない）

図１　競合する価値の中で判断する

「やむを得ない」の意味

自然愛護や正直の例に見られる「やむを得ない」「仕方がない」という意識は，何を意味しているのでしょうか。「本来はそうすべきだが，今はそうできない状況にある」ということでしょう。逆にいえば，「そうできる状況にあるなら，そうすべきだ」ということです。確かに，どのような状況にあっても，すなわちたとえ人命が失われても，「自然を守るべきだ」あるいは「うそをつくべきではない」と考える人はまれでしょう。とすれば，道徳のどの項目も，ほかの項目と競合する場合には，「できるなら」という条件を背負っていることになります。つまり，正直の場合であれば，「端的に正直であるべきだ」というのではなく，「できるなら正直であるべきだ」というわけです。

項目間の関係を「考える道徳」

このように，道徳のどの項目にも，それを実現できない場合があることを自覚しておく必要があります。では，できない場合とはどのような場合なのでしょうか。

この問いの解は人によってさまざまです。うその例でいえば，自己利益のためにはうそをつかざるを得ないという解もあれば，自分のためにうそはつかないが，他者を救うためにはうそをつかざるを得ないという解もあるでしょう。そのほか多くの解のうち，「自分はどのような解をもつべきか」をあらかじめ考えておくことは重要です。さらには，うそをついて正直や誠実という道徳的な項目を犠牲にする場合，その際の理由がはたして本当に「やむを得ない」「仕方がない」ものであったか否かについて，自分自身で考えておくことも重要でしょう。

子どもたちに道徳の項目一つひとつを深く理解させることは大切です。しかし，それとともに不可欠なのは，異なった項目間の関係や対立を想定して，子どもたちに自分自身がどのように考えているのかを見つめさせることです。日常生活の中で道徳的問題が生じる場合，そこに単一の道徳の項目だけが関わってくることはむしろまれなことだからです。

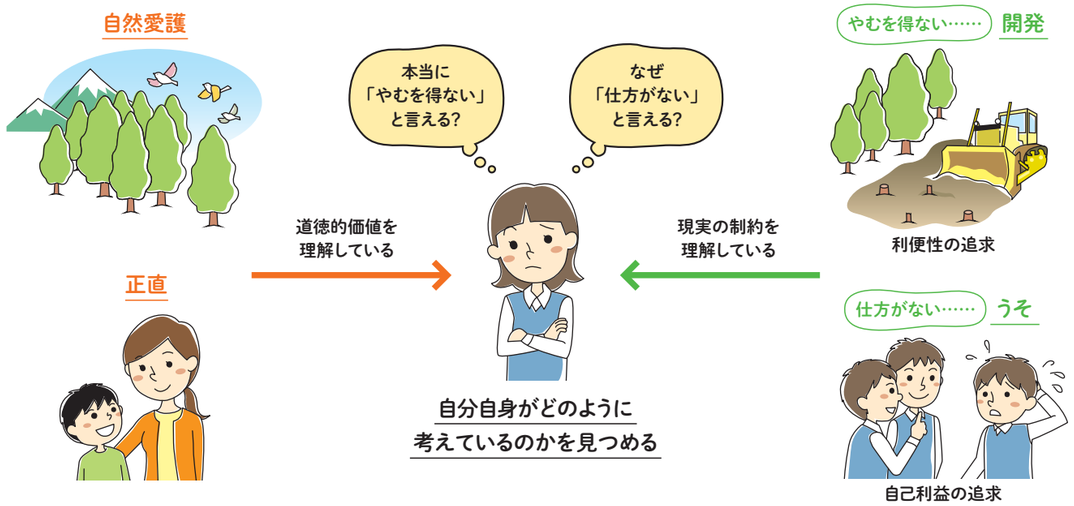


図２　対立した道徳項目について考える

実践事例
小学校

毎週の授業を組み立てていくうえで大切にしたいこと

東京都杉並区立久我山小学校教諭　岡尾 あすか

① はじめに

本校では，教師が明確な指導観をもつと同時に，児童の実態を踏まえた授業を行うために校内研究を重ねてきた。以下は，指導の経験年数にかかわらず質の高い道徳の授業を行うために，本校が実践していることの一例である。

② 今日からできること

毎週の授業の細案を作成することは，あまりにも負担が大きい。多くの教師は教科書の赤刷りを参考にしているだろう。それでも，児童の実態に合わない授業展開になってしまったり，価値がぶれてしまったりした経験はないだろうか。以下は，それらを少しでも減らすために，道徳の授業の前日までに必ず行っておきたいことである。

（1）学習指導要領解説を読む

その授業で扱う内容項目のページを，概要と担当学年の指導の要点，余裕があればそれ以外の学年の分もあわせて読んでおくと，自分がもっていた指導観と照らし合わせることができたり，一般的な児童の発達段階が把握できたりする。(例えば，私自身も本時のA「節度，節制」とC「規則の尊重」の違いがわからなくなってしまったので，２つの内容項目を読み比べ，それぞれの意図を整理した。）教師が明確な指導観をもって授業を組み立てていくために，学習指導要領解説を読むことは大切なことの一つだと考えている。

（2）児童の実態を具体的に想起する

学習指導要領解説で一般的な児童の発達状況を知った後は，自分の学級の児童に落とし込む。各教科や日常生活での自分の指導と，児童の会話や言動を具体的に想起することで，一人ひとりの児童の達成できている部分と課題がおのずと見えてくる。児童観と指導観を明確にすることで，児童の実態に合った授業展開ができると考えている。

今回は，相手のことを考えて自分を抑えることができるようになってきた児童がいる一方で，自己中心的な言動で友達を傷つけてしまったり困らせてしまったりする児童が過半数を占めているという実態から，ねらいを「わがままをしすぎず，規則正しい生活を送ろうとする心情を育てる。」とした。

（3）略案を立てる

児童観と指導観から本時のねらいが浮かび上がったら，教材を読み込み，ねらいに迫るための中心発問から考えていく。すると，中心発問につなげるための基本発問と導入，終末が組み立てられる。学習活動の欄には，(2) で想起した児童の実態から，予想される反応をできるだけたくさん（それも，いろいろな角度から）書いておくと，授業をする際も落ち着いて児童の発表を受け止められる。指導上の留意点の欄には，どんな意図で発問を立てたのか記載しておくと，ねらいと照らし合わせて考えられる。

③ おわりに

普段の学級経営や板書，教材提示の工夫など，技術として必要なことはたくさんあるが，以上 (1) ～ (3) を必ず行うことで，ねらいがぶれることのない充実した１時間になると考える。

内容項目：A「節度，節制」

展開例

主題名　規則正しい生活　　**教材名**　かぼちゃのつる
（『小学校　道徳の指導資料　第３集（第１学年）』文部省）

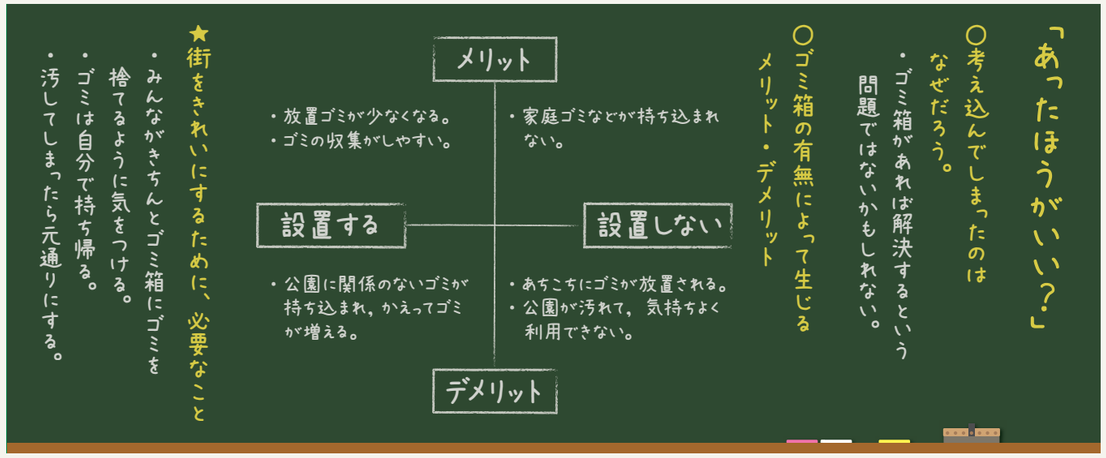
ねらい　わがままをしすぎず，規則正しい生活を送ろうとする心情を育てる。

	学習活動（◎中心発問，○基本発問，・予想される児童の反応）	○指導上の留意点，●発問の意図，◇評価
導入	**1　教材のイメージを膨らませる。** ○かぼちゃを知っていますか。 ・ハロウィーンのときに見たことがある。 ・食べたことがある。 わがままについて考えよう	○児童相互の発言をより深く認識させるために，座席をコの字に配置する。 ○本時で考える学習課題を板書し，明確にする。
展開	**2　教材「かぼちゃのつる」を読み，話し合う。** ○みつばち，ちょうちょ，すいか，子犬に注意されたとき，かぼちゃはどんな気持ちだったのでしょう。 ・なんで注意されなきゃいけないんだ。 ・ちょっとくらいいいだろう。 ・みんなの言うことなんか聞かなくてもいいや。 ・ぼくは悪いことなんかしていない。	○教材の世界に入り，登場人物への自我関与が深まるように，ペープサートを用いて読み聞かせる。 ●登場人物に自我関与して，わがままを言っているときには周りが見えず，迷惑をかけたり嫌な気持ちにさせてしまったりしていることについて考えさせる。
	◎つるが切れてしまったとき，かぼちゃはどんな気持ちになったのでしょう。 ・痛い。 ・つるが切れてしまって悲しい。 ・みんなに注意されていたのに，それを聞かずにわがままをしてしまった，反省。 ・わがままなことをするのはもうやめよう。	●登場人物に自我関与して，自己中心的に自分のしたいことだけを行ったことで痛い目にあったときに気づく，反省の気持ちについて考えさせる。 ○自己の考えを整理し深めるためにワークシートに記入させた後，多様な意見に触れさせるために，ペアで交流させる。 ◇わがままをしすぎないようにしようとしているか。（ワークシート，発言）
	○今まで，やりたいことをしすぎてしまったり，わがままばかりを言ってしまったりしたことはありますか。そのとき，どんな気持ちになりましたか。	●今までの生活を振り返り，わがままをしたときの気持ちについて考えさせる。 ◇わがままをしすぎず，規則正しい生活を送ろうとしているか。（ワークシート，発言）
終末	**3　教師の説話を聞く。**	○節度，節制について，教師の体験から説話をする。

実践事例
中学校

さまざまな立場に立ち，多角的に考える道徳授業の実践

千葉県千葉市立山王中学校教諭　榎本 小有希



① はじめに

内容項目Ｃ「社会参画，公共の精神」は，小学校の内容項目Ｃ「勤労，公共の精神」の１・２学年「働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。」，3・4学年「働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。」，５・６学年「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。」を受け，設定されている。次の内容項目であるＣ「勤労」とも相まって，共同生活を営む人々の集団である社会の一員として，その社会におけるさまざまな計画に積極的に関わろうとすることである。（「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳」より抜粋）

この時期の生徒たちは，社会において人間関係が希薄化する傾向が見られ，他者に対する配慮を欠いたり，自己中心的な言動をとったりする生徒も少なくない。しかし，そのような生徒にも自己中心的な言動をよくないと思う心が内面にあり，よりよい社会の実現については純粋に考えることができる。だからこそ，社会生活において一人ひとりが共に手を携え，協力し，誰もが安心して生活できる社会をつくっていくにはどうすればよいかを，多面的・多角的に考え，深めることが大切である。

この内容項目の学習を通して，自分も他者も共によりよく生きようとしていることを自覚させ，互いに助け合い励まし合うという社会連帯の意識を育てたい。また，個性を尊重し民主的な社会を築くためにも，連携することの大切さを自覚させたい。

② 教材について

本教材では，街中で捨てられたガムを踏んでしまった主人公が，その原因をゴミ箱が設置されていないことにあると考えていたが，ゴミ箱があるために生じている問題もあることを母から聞かされ，悩んでしまうという姿が描かれている。

主人公の悩む姿を通して，ゴミ箱の有無によるメリット・デメリットを議論させ，よりよい社会を築くために誰もが心がけなければいけないことについて考えさせたい。

③ 本時の評価

ゴミ箱の有無によって生じるメリット・デメリットに着目し，議論することにより，よりよい社会をつくるために必要なことを考えられたか。

内容項目：Ｃ「社会参画，公共の精神」

展開例

主題名　よりよい社会のために　　**教材名**　あったほうがいい？（『中学道徳　あすを生きる 1』日本文教出版）

ねらい　身近なゴミ問題を考え話し合うことを通して，社会に尽くす公共の精神について深く考え，よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。

	学習活動（◎中心発問，○基本発問，・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点と確認事項
導入	1　きれいな街について考える。 ○きれいな街とは，どんな街だろう。 ・家が新しい。 ・ゴミが落ちていない。 ・緑が多い。	
展開	2　教材「あったほうがいい？」を読み，話し合う。 ○智子が母の話を聞き，考え込んでしまったのはなぜだろう。 ・ゴミ箱があれば解決すると思っていたけれど，そうではないかもしれないと母の話を聞いて思ったから。 ・あってもなくても問題が起こるのなら，どうすれば解決するのかわからなくなってしまったから。	◇教師が範読する。 ◇ゴミ箱の有無によって生じる問題に気づかせる。 ◇主人公に共感させる。
	○ゴミ箱の有無によって生じるメリット・デメリットを考えてみよう。 （近くの公園を挙げ，考えるように伝える。） メリット ・放置ゴミが少なくなる。 ・ゴミの収集がしやすい。 ・家庭ゴミなどが持ち込まれない。 設置する　設置しない ・公園に関係のないゴミが持ち込まれ，かえってゴミが増える。 ・あちこちにゴミが放置される。 ・公園が汚れて，気持ちよく利用できない。 デメリット	◇小グループになり，ゴミ箱がある場合とない場合それぞれのメリット・デメリットについて，多面的・多角的に考えさせる。 ◇出た意見を発表させた後，ゴミ箱の有無についてどちらがいいか，その理由も含めて個人で考えさせる。
	◎街をきれいにするために必要なことを考えてみよう。 （自分自身に何ができるか。どんな行動ができるか。） ・みんながきちんとゴミ箱にゴミを捨てるように気をつける。 ・ゴミは自分で持ち帰る。 ・汚してしまったら元通りにする。 ・誰かがやってくれるのを待つのではなく，自分がその誰かになる。	◇ゴミ箱の有無に縛られず，生活する人たちの意識が大切だと気づかせる。
終末	3　本時の振り返りをする。 （事前に近くの公園職員にお願いしたゴミ箱設置についてのアンケート結果も伝え，現状を知らせる。）	◇本時の学習を通して考えたことや感想をノートに書かせる。

こんなコト，聞いてみました！

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり，励みになったり。
これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

今回のテーマ

道徳の授業におもしろさを感じる瞬間は？

思考の盲点に「光」を当てる大切さ

京都府京都市立藤森中学校教諭　中山 芳明

私には，道徳の授業を考える際に，忘れられない授業があります。当時，私が勤務していたのは，さまざまな事情を抱えた生徒が多数在籍している中学校でした。だからこそ，私にとって道徳の授業は，彼らに「大切にしてほしいこと」を伝えるチャンスをもらえる，何よりも大切な時間でした。育児放棄（ネグレクト）を受ける子や，家族からの暴力を受けている子，非行行為を繰り返す子などに，届けるべき言葉がある。そう信じてさまざまな教材に取り組む中，行ったのが，「二通の手紙」の授業でした。

C「遵法精神，公徳心」という内容項目の名作で，親が忙しくて動物園に連れていってもらえない二人の子どもに同情した職員・元さんが，規則を破って入園させ，そのことで責任を問われるというストーリーに，予想通り，多くの生徒が反応しました。「子どもがかわいそうだから入れるべきだ！」「元さんの行動は間違ってない！」「入れてあげないなんて人でなしだ！」という意見が多数を占め，クラスで少数の真面目な子が「だって規則だから入れたらいけないと思う……。」と小さな抵抗を続けていましたが，「情」を大事だと感じる子たちの前に劣勢であることは明らかでした。

問題の多い彼らでしたが，ありがたいことに道徳の時間では必ず私の意見に耳を傾けてくれました。こちらも頭から決めつけた答えをぶつけず，思考の盲点を突くような問いを投げかけていたからかもしれません。一緒に考え，ああでもないこうでもないと議論したのち，私に「こんな考えもあるんじゃない？」と投げかけられ，従来の意識がひっくり返されることを楽しいと感じてくれているようでした。

そのときも同じように，ある程度議論が白熱したのち，「先生も入れたげるやろ，そう思うやろ，なあ！」「先生はどう思う？」と彼らは同意を求めてきました。そこで，「私には子どもがいるし，誕生日に動物園へ行きたいというこの子たちの願いには胸が詰まる。」と認めたうえで，「でも，もし，子どもだけで入れて何か事故があったのなら，申し訳ないが，私は元さんを許すことができないと思う。」と告げたその瞬間，教室の空気が変わりました。

ルールがどうであろうと，感情で納得できないことには正面突破するのが慣れっこの彼らでしたが，そのとき初めて，「なぜルールがあるのか」「ルールは何を守っているのか」を真剣に議論し始めました。そこには，勉強の得意，不得意もない，公平で誠実な時間が流れていることに，私は深く感動していました。

道徳の授業で生徒たちが退屈そうにするのは，わかっていることを教えられたときです。彼らは愚かではありません。年相応の道徳的知識や判断力も備えています。ただし，それは完璧でもありません。そこで，本人だけでは気づけない視点を示唆することが，教師の役割であり，道徳の醍醐味だと思います。

立場の違う場合はどうなのか。もし，ここで謝れていたならどうなったのか。どちらかが一方的に悪いのか。この子の家族はどう感じるだろうか。この世界には無数の状況があり，考えがあり，問いがあります。それらと向き合うとき，人は新鮮な学びを得て，人間的な成長を遂げることができると思います。

「二通の手紙」の授業の最後でみんなに意見を聞いたところ，やんちゃな生徒が「それでも入れてあげるべきだと思う。」と話していました。彼女なりに考えた彼女なりの誠実な意見。道徳の授業の一時間で一気に変わるなんてことはそうそうありません。それでも，彼女の中に「考えてみる」種は蒔かれ，いつか芽吹いたろうと考えるのです。

地球の仲間からのメッセージ

獣医師，元大阪市天王寺動物園長
長瀬 健二郎

キョクアジサシは，毎年北極圏と南極圏の間を行き来します。

渡り鳥

先日，帰宅途中で急に雨が降り出し，雨宿りをしました。そこは偶然，春から夏の間，通るたびにヒナの成長ぶりに心が癒やされていたツバメの巣がある軒下でした。もちろん巣の中はもう空（から）でしたが，少し場所を変えながらも40年近く営巣が続いているところですから，来年も暖かくなればきっと帰ってきてくれることでしょう。今頃は東南アジアの，ひょっとするとオーストラリアかもしれませんが，エサを探して忙しくしていることと思います。あの小さな体で3000km以上にも及ぶ長い距離を渡ってきてくれるのですから，大切に守ってあげたいものです。実はツバメのほうも，ヒトに近い場所に巣を作ればカラスなどから守ってもらえる，とわかっているようなのですが。

ツバメは姿を消しましたが，代わりにカモたちが大陸から渡ってきています。ツバメはヒナを育てるために日本に来ますが，カモたちは冬の厳しさをしのぐために渡ってきます。そのため，ツバメは「夏鳥」と呼ばれ，カモたちは「冬鳥」と呼ばれます。実は日本に来る渡り鳥で，もう一つ別のタイプのものがいます。

ツバメは，子育てのために日本へ渡ってきます。

それは「旅鳥」と呼ばれるもので，日本を渡りの中継地とする鳥たちです。夏鳥も冬鳥も何か月間か日本に滞在しますが，旅鳥はもっと北，もしくは南を目指す途中で休息地として日本に立ち寄るのです。

空を飛ぶことのできる鳥のうち，最大級のオオハクチョウでも，体重はせいぜい12kgほどです。ツバメに至っては20g程度しかありません。そんな体で数千kmも飛んでくるのですから，感心するしかありません。では，最長どのくらいの距離を渡る鳥がいるのでしょう。答えは往復でおよそ10万kmです。その鳥の名はキョクアジサシといいます。漢字で書くと「極鰺刺」です。アジサシの仲間は，日本全国各地の海岸で春から秋にかけて見ることができます。海岸から目と鼻の先の上空5，6mのところで一点にとどまって羽ばたき，エサである小魚を見つけると，さっとダイビングして捕まえる，というところから，鰺刺という名がつきました。見たことがある方もいらっしゃることでしょう。キョクアジサシも同じような生態をしているのですが，ただ生活の場が「極」，すなわち南極圏と北極圏なのです。最もエサの豊富なエサ場を，子育てあるいは生活の場とするため，危険を冒してまで長い渡りをするのです。一見無謀な生活のようにも思えますが，今でも繁栄しているところをみると，その生態は彼らに最も適したものなのでしょう。動物たちには驚かされるばかりです。